

A close-up photograph of yellow mimosa flowers with green feathery leaves, set against a light green background. The flowers are in sharp focus in the foreground, with some blurred in the background.

Equality

誰もが平等の権利を持つ社会へ

103号

コロナ後 新しい日常へ
2022

文京区男女平等センター

第37回文京区男女平等センターまつり



10月22日(土)、23日(日)の2日間にわたって、男女平等センターまつりを開催しました。

今年は、3年ぶりに舞台発表とお茶席が催されました。そのほかメイン展示、図書展示、登録団体パネル展示やワークショップ、また講演会、映画会を企画しました。

【2022年度 文京区男女平等センター事業一覧】

2022年

- 6月3日 利用者懇談会
- 6月18日 「女らしさ・男らしさ」から自由になるためのレッスン
～ジェンダー平等な子育てとは～
- 6月27日 知っているようで知らない「認知症」
- 7月2日 心配ですね「認知」の病気～認知症治療の最前線～
- 7月31日 広報誌 Equality 101号（開く格差～下層化する人々～）
- 8月20日 ～からだフシギ～ 子どもに教えたい大切な「からだ」のこと
- 9月2日 ジェンダーとメディア ～マスコミ報道の中にあるジェンダーバイアス～
- 9月13日 こんにちは 高齢者あんしん相談センターです！～知って安心、上手に活用～
- 10月22日～23日 第37回文京区男女平等センターまつり
「ジェンダー平等はやさしい平和な社会から」
- 11月6日 声にならないSOS聞こえていますか？～人権が守られる社会を～

2023年

- 1月28日～29日 パパと子どものクッキング～料理の基本を学ぶ～
- 1月29日 登録団体企画助成事業 グループきらっと
「福島原発事故の記録 写真絵本『私はあいちゃんのランドセル』」
- 1月31日 広報誌 Equality 102号（男女平等センターまつり特集号）
- 2月6日～3月6日 利用者アンケート
- 2月18日 その時どうするダブルケア！～「子育てと介護」ダブルケアの実態と地域支援～
- 2月24日 登録団体活動報告会
- 3月4日 セクハラ・パワハラを超えて～女性落語家初真打への道～
- 3月11日 アンコンシャス・バイアスに気づく～性差別の疑似体験をとおして～
- 3月31日 広報誌 Equality 103号（2022年度事業総括号）

アンコンシャス・バイアスに気づく

—性差別の疑似体験を通して—

わたしたちは、過去の経験などに影響を受けて無意識に偏ったものの見方をしていることがあります。それに気づかないことで、自分自身の可能性を狭めてしまったり、知らずに相手を傷つけてしまうかもしれません。今回は、プラスワンセミナーⅣにお越しいただいた内海崎先生に「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）」について、ご寄稿いただきました。



うちみざき たかこ
内海崎 貴子さん

➡ プラスワンセミナーⅣは、p4参照

プロフィール

川村学園女子大学教授
文京区男女平等参画推進会議会長

【専門】教育学（人権教育・ジェンダー平等教育）
女性学（セクシュアリティ、性の多様性）

【著書】『スクール・セクシュアル・ハラスメント
—学校の中の性暴力—』2019年 八千代出版 他多数

ここ数年、「アンコンシャス・バイアス」という言葉を耳にすることが増えました。厚生労働省や企業・連合でも取り上げていますし、特に、男女共同参画にかかわる講座や研修会、イベントなどで使用されています。内閣府男女共同参画局では、「アンコンシャス・バイアス」を次のように定義しています。無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）とは、自分自身は気づいていない「ものの見方や捉え方のゆがみや偏り」をいいます。

また、内閣府男女共同参画局では2021年度と2022年度に、「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究」を実施し、その調査結果を公開しています。2021年度の調査結果公表時には、チェックシートや事例集を出しています。「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）チェックシート」の項目は、以下の項目を含め、全部で23項目あります。※1


- 女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない
- 組織のリーダーは男性の方が向いている
- PTAには女性が参加するべきだ
- 男性は仕事をして家計を支えるべきだ

チェックシートの項目は、ジェンダー・バイアスと重なります。つまり、「アンコンシャス・バイアス」の中には、ジェンダーにかかわるものがかなり含まれていると考えられます。

しかし、チェックシートについては、注意しなければならないこともあります。例えば、「PTAは女性が参加するべきだ」という項目に「いいえ」と回答した人が、実際に、PTAに参加する男性を見て「不自然だ」と感じる場合があります。自分が意識して記入した回答＝チェックシート項目への回答と、自分の無意識の感じ方とが一致するとは限らないのです。「アンコンシャス・バイアス」は潜在的ステレオタイプともいわれ、気づいていない思い込み・偏見ですから、意識していないところで作用するのです。


※1 令和4年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査結果
内閣府男女共同参画局総務課
(www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2022/202212/202212_06.html)

講演での“気づき、が
なることを願い企画している

プラスワンセミナーⅠ  文京区男女平等センター事業 2022

**心配ですね「認知」の病気
～認知症治療の最前線～**

令和4年 7月 2日(土)
14:00～15:30 (開場 13:30)

講師 **肥田 道彦** さん 

日本医科大学多摩永山病院 精神神経科 部長・准教授

会場 文京区男女平等センター研修室 A

定員 30人(当日先着順)

無料

だれもが自分らしく年を重ねて生きたいと願っています。
たとえ「認知症」と診断されても自分らしく生き日常生活を続けていくためには、どうすればいいのでしょうか？
治療の現場で患者さんとともに最前線を走っている講師から「認知症治療」の現状を学びます。

【アンケートより】

- 専門的でアルツハイマーの事がよくわかりました。認知症患者への対応、MC1（軽度認知障害）の患者への進行抑制など考えさせられました。生活環境を整える事の重要性をよく理解できました。
- ストレスをためず生活できるように努力しようと思います。年をとると誰でも認知症になる可能性があるので日常生活を見直すことも必要だと感じた。
- ここ数年で検査方法も随分進んだ事もわかり良かったです。

プラスワンセミナーⅡ 男女平等センター事業 2022

ジェンダーとメディア
～マスコミ報道の中にあるジェンダーバイアス～

日時: **9月2日(金)** 無料
18:30～20:00 (開場: 18:00)

会場: 文京区男女平等センター研修室 A

講師: **竹信 三恵子** さん 

和光大学名誉教授
ジャーナリスト

定員: 30名(当日先着順)

報道の中で、ジェンダーはどう扱われてきたのでしょうか。そして今、メディアで取り上げられる日本の「男女平等」の実態から、その根本の問題点を学んでいきたいと思ひます。

【アンケートより】

- 真実を伝える事は難しいメディアの世界と常々感じている。若者のテレビ、新聞離れが激しいがSNSが持つ力に光も感じる。政府を動かすのは、一人ひとりの力であることを忘れずに生活したいです。
- メディアや政治など強い権力に操作されない賢さは、広くいろんな意見を聞くことが大事とのこと。そのために、男女平等センターの役割も大きいと思います。
- 今まで何かおかしいと思ってはいたけれど、理由がわからなかったことを明解に説明してくださり、もっと話が聞きたかったです。声を上げることの大切さにも気づかされました。

セミナー（全4回）

あなたの生活に何かひとつプラスに
セミナーです。

プラスワンセミナーⅢ 文京区男女平等センター事業 2022


その時どうする ダブルケア！

～「子育てと介護」ダブルケアの実態と地域支援～

日時：2月18日(土) 13:30～15:00 **無料**

講師：成田 光江 さん
福井県立大学 准教授
(看護福祉学部)

会場：文京区男女平等センター 研修室 A
対象：どなたでも
定員：30名(当日先着順)



昨今、老々介護に次いで、子育てと介護のダブルケアが増加しています。働き盛りの多くの女性が直面する問題です。子育てと家事、仕事、更に介護といった大変な状況を介護職や孤立することなく、どう乗り越えていくのか。『多重ケア』の体験者でもある講師から、その実態と問題の核心を学び、解決の糸口を見つけていきます。

【アンケートより】

- 非常に興味深い講演でした。地域によって環境や人間関係が随分違うんだなと、福井県が少しうらやましく思いました。「地域包括ケア」という言葉はイメージがわきにくかったのですが、とても大切なことだと痛感しました。
できる者が、できる時にできる事をする。人間関係が一番なのですね。
- 様々な事例でわかりやすくとても良かった。これから起こりうる自分のまわり、自分への介護を考えて、家族と話し合いたい。

プラスワンセミナーⅣ 男女平等センター事業 2022

アンコンシャス・バイアスに気づく


～性差別の疑似体験をとおして～

日時：3月11日(土) 14:00～16:00 (開場：13:30) **無料**

会場：文京区男女平等センター研修室 A

講師：内海崎 貴子 さん
川村学園女子大学教授
文京区男女平等参画推進会議会長

定員：30名(当日先着順)



性別に基づく無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)に体験学習から気づくのは、誰もが自分らしく生きる社会への大切な一歩です。0歳から10代の子育てにもお役立てください。

【アンケートより】

- 長い間、研究を重ねられた先生の貴重なワークショップでした。一人ひとりを「尊重する」ことの対極にある「差別」や「抑圧」がどういうものか、胸に突きつけられました。差別のない社会づくりの第一歩は、気づくという自分発の主体的な行動なのだと思います。
- 実に面白かったです。無意識のうちに男女役割分担を決めていたことに、改めて気づかされました。小さな子どもにとって、先生や大人の影響力は大きく、責任重大ですね。
- ワークショップの疑似体験は、心に残る印象として長く定着するので、有効な手段だと思いました。

男女共同参画週間記念事業

男女共同参画週間記念講演会
「女らしさ・男らしさ」から
自由になるための
レッスン **入場無料**
～ジェンダー平等な子育てとは～

性差別・性暴力をなくすために様々な問題と向き合ってきた弁護士であり、2人の男の子の母である太田啓子さんに、お聞きします。

講師：
太田啓子さん
(弁護士)

著者：太田啓子
イラスト：マシモコ

このからの男の子たちへ
太田啓子

【日期】2022年6月18日(土) 13:30～15:30(開場13:00)
【会場】文京区男女平等センター 研修室A
【定員】60名(申込順) 【対象】どなたでも ホームページ▶

【アンケートより】

- 8月に女の子を出産する予定です。自分が女性として育つ中で、嫌だった経験をさせたくないの気をつけようと思っていることはたくさんありましたが、どう教えて守っていくことができるのか。参考になることがたくさんありました。
- 大変良かったです。動画が見られたのも良かったです。これから大きくなる子どもが「らしさ」とらわれずに自由に生きられるようにと思います。
- 刷り込みを完全に失くすことは難しくても、意識的になることが今の私にできることだと感じました。これからの人生そのようなありかたで向き合っていけたらと思います。

配偶者等暴力防止啓発事業

文京区男女平等センター事業 2022 配偶者等暴力防止啓発事業

**声にならない SOS
聞こえていますか？**
～人権が守られる社会を～

日時：**11月6日(日)**
13:30～15:00

講師
安藤由紀さん
(人権ファシリテーター・絵本作家)

会場：**文京区男女平等センター研修室A**
定員：**50名(当日先着順)** 入場無料

手話通訳・保育(1歳～未就学児)あり
(文京区在住・在勤・在学者に限る)
要予約 申込締め切り：10月23日(日)

【アンケートより】

- 大変丁寧に、わかりやすく納得して聞くことができました。個人の問題にしてはいけないこと、被害者、加害者ともにDVで苦しむ人を救出していくために取り組んでいくことがたくさんあることを知りました。
- 身近なわかりやすい話題から入って、難しい問題を興味深く聴かせて頂きました。DVは自分と関係ないと思っていましたが、現実的なものとして考えることができるようになりました。

区政を知る事業

私たちが暮らす文京区の区政を、男女平等の視点から少しでも詳しく知るために企画している事業。

テーマに沿った区の担当者からのお話です。

区政を知る事業 文京区男女平等センター事業 2022

知っているようで知らない「認知症」

日時: 6月27日(月)
14:00~15:30

講師: 宮部 義明 さん
文京区福祉部地域包括ケア推進担当課長

会場: 文京区男女平等センター 研修室A

対象: どなたでも

定員: 30名(当日先着順) **無料**

2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になると予測されており、認知症に向けた取り組みの重要性が高まっています。認知症の予防対策の取り組み・早期発見のための脳の健康度測定(認知症検診)や相談体制、安否確認・見守り等の文京区の先進的な取り組み事例があります。自分やご家族が認知症になったらどうするか、一緒に考えてみませんか？

【アンケートより】

- とても良く理解できました。これからの生き方、人に接する時もやさしく心の広い人間になりたいと思いました。区の推進事業を活用していきたいと思いました。
- 認知症について知識が深まった。既に両親の介護が終わってしまい残念。親にすぐに怒ってしまい、共に嫌な思いをしました。生前に勉強したかった。
- ビデオが分かりやすく、具体的な対応を見ると参考になるので良かった。まだ認知症ではないが、その種は内存していると思うと、他人事ではない。

区政を知る事業 文京区男女平等センター事業 2022

こんにちは 高齢者あんしん相談センターです！ ～知って安心、上手に活用～

日時: 9月13日(火)
10:30~12:00

講師: 小川原 功 さん
文京区高齢者あんしん相談センター大塚 センター長

会場: 文京区男女平等センター 研修室A

対象: どなたでも **無料**

定員: 30名(当日先着順)

高齢者あんしん相談センターは、区が設置する高齢者の総合相談窓口です！これから先のことを考えると、不安だなあ~と思うことはありますか？安全・安心に生活していくために、ぜひご利用ください。高齢者の方だけでなく、ご家族の方、地域のみなさん、お待ちしております。

【アンケートより】

- 認知症、介護というワードを聞くことが多くなり、身近に感じ、問題解決の糸口になったり、役立てることがあるのではと思い参加させていただきました。活動の仕組みが少し理解できたので今後、役立てていきたいと思えます。
- ガンや認知症治療に早期発見・早期治療が大事なように、高齢者の生活点検も早期の気づきから改善に向けていくことが肝要で、そのための高齢者あんしんセンター活用だと確認できました。

家庭生活への参画支援事業

男女平等を実現するためには、男性の家庭生活への参画が不可欠。その視点から企画しています。

家庭生活への参画支援事業 男女平等センター事業 2022

～からだフシギ～
**子どもに教えた
大切な「からだ」のこと**

日時：8月20日(土)
13:30～15:00 (開場：13:00)

講師：菱沼 典子 さん
NPO 法人からだフシギ理事長
聖路加国際大学名誉教授

会場：文京区男女平等センター研修室 A
定員：24名(申し込み順) **無料**

子育て中のパパ・ママ
そして子どもたちの身近にいる大人のみなさんへ
日常のなかで、子どもたちに「からだ」のことを、正しくわかりやすく伝えるために「絵本」から学びます。
工夫された「絵本」の読み聞かせの体験をして、これからの子育てに役立ててみませんか。

【アンケートより】

- 大人が聞いてもとてもためになる内容でした。体を知ることが大事なことと実感しました。今回の内容は子育てに役立てていきたいと思っています。
- 子どもと一緒に大切なからだの不思議で素晴らしい働きを感じていく時間や機会をもつことが大切だと思います。
- 絵本の読み聞かせには、試験のための知識でなく「感じる」という要素が貴重なのだとグループワークで思いました。やってみます！

家庭生活への参画支援事業 男女平等センター事業 2022

—料理の基本を学ぶ—

**パパと子どもの
クッキング**

開催日 ①1月28日(土) ②1月29日(日)
時間 10:00～13:00 (*どちらか1日)
講師 奥山 まゆみ さん (料理研究家)
献立 1. きんば (韓国風海苔巻き)
2. 水餃子 (餃子の皮は手作り)
3. みそ汁

対象：区内在住・在勤の男性保護者と小学生 各1名
定員：各日6組 (申し込み先着順)
参加費：1組 1,000円
持ち物：エプロン・三角巾・手拭き用のタオル(各自)
会場：男女平等センター 実習室

*食物アレルギー(小麦粉・胡麻・玉子等)をお持ちの方は申込みをお控えください

【パパたちのアンケートより】

- 子どもと一緒に料理をする経験はなかったので、とても良い思い出になりました。家でも少し料理をしてみたいという興味を持つことができました。今後もこのような機会があれば、ぜひ参加したいです。
- 普段料理は全くしないのですが、クッキングを通して子どもとコミュニケーションがとれたのがよかったです。一緒に同じ作業を協力しながらやることの大切さや楽しさを知りました。



【子どもたちのアンケートより】

- すごくかんたんに作れたので、家でもたくさん作ってみたいです。
- じぶんでつくってたのしかった。おとうさんとつくってたのしかった。

女性活躍推進事業

3月8日の国際女性デーに合わせて、女性の活躍を推進するため女性の政治や社会への参画をテーマとした事業を行っています。

女性活躍推進事業
「三遊亭歌る多・講演と落語の会」

入場無料

女性落語家真打への道 ～セクハラ・パワハラを超えて～



講師：真打
**三遊亭
歌る多** 師匠

男性優位の落語界の中で、女性として真打に昇進した、三遊亭歌る多師匠が語ります。



前座
三遊亭 二之吉さん

日時 2023年 **3月4日** (土) 14:00～16:00 (開場13:30)

場所 文京区男女平等センター 研修室A

定員 80名 (申込先着順) 対象 どなたでも





歌る多さんは、1981年に三遊亭圓歌師匠に入門、男性が絶対優位の落語の世界で、種々の困難を乗り越え、1993年に真打に昇進しました。

講演ではパワフルな語りが会場いっぱいに流れ、歯切れの良い声に魅了されました。

約90名の参加者は落語の熱演に引きこまれ、笑いの渦が沸き起こりました。最後は「かっぱれ」を踊り、大盛況のうちに幕を閉じました。

【アンケートより】

- 歌る多さんの「自分のなりたい姿」のために今自分は何をすべきか、どうすべきかを考えて行動してきた。自分で道を切り開いてきたというお話に深く感心しました。
- 女性が活躍できるようになったこと、うれしく思います。落語も楽しかったです。

登録団体企画助成事業

男女平等センター登録団体が区民に向けた事業の企画・実施を支援するための制度です。今回は「グループきらっと」が東日本大震災を取り上げました。

登録団体企画助成事業 文京区男女平等センター事業 2022

—福島原発事故の記録—

写真絵本 「私はあいちゃんの ランドセル」

日時：令和5年1月29日(日) 13:30～15:00
講師：菊池和子さん(作家、写真家)
演奏：室井三紀さん(筑前琵琶奏者)
会場：文京区男女平等センター 研修室A 入場無料
定員：50名(当日先着順)
問合せ先：グループきらっと 090-8044-8432

プログラム

第1部 朗読ライブ「私はあいちゃんのランドセル」
第2部 スライドトーク「写真の背景と行間」

【主催者の感想より】

52人の参加者があり、福島のことを共有することができました。参加者からは、「風化させてはいけない」「初めて福島の様子を知った」「よい機会だった」の声をいただきました。

原発に対する思いを参加者それぞれが持つことができた事業であったと思います。





国連は、1975年の国際婦人年において、3月8日を国際女性デーと決めました。20世紀初頭の北米とヨーロッパにおける運動に端を発し、途上国と先進国の双方で、国際的な女性運動が広がっていきました。国際女性デーは、一般の女性たちが達成してきた成果、そして勇気と決断をたたえる日として、全世界で記念イベントが開催されました。

UN Women (国連女性機関) が掲げる今年のテーマは、「ジェンダー平等のためのイノベーションとテクノロジー」です。技術革新と教育のデジタル化により、女性企業家が新たなマーケットにアクセスすることができ、また、様々なサービスがオンライン上で利用可能になっています。一方、経済的・社会的不平等の拡大に伴い、女性が男性よりもインターネットにアクセスできていないという現状があります。また、STEM (科学・技術・工学・数学) 分野においても、まだまだ女性や少女が参画できていません。併せて、オンライン空間で、女性・女児の権利を保護し、デジタル性暴力に対処することも課題となっています。

区は、UN Women (国連女性機関) 日本事務所と連携し、ジェンダー平等に関する周知啓発に取り組んでいます。

この機会に、性別にかかわらず活躍できる社会について、考えてみませんか。



人権と音楽講座

「他者への想像力を養う～オペラ『蝶々夫人』を通して考える」を開催しました

日時：2023年1月25日（水）午後7時～8時30分

会場：オンライン開催

講師：森岡 実穂さん（中央大学経済学部教授）

オペラ作品は、一つの台本と音楽を基にしつつも、上演される時代が反映されて多様な解釈がなされています。今回は、オペラ「蝶々夫人」の上演史から読み解く人権意識や社会規範の変遷について、中央大学経済学部教授としてご活躍されている森岡 実穂さんにご講演いただきました。

蝶々夫人という作品の中に見られる権力関係について、「ジェンダー」「オリエンタリズム」「親子」「貧困」など多様な切り口から、それぞれにスポットを当てた演出方法とともにご紹介いただきました。

参加者からのご感想（一部）

- オペラの一作品「蝶々夫人」から、これほど深く「人権」、さらには「社会のありよう」について考えることができる、考えるべきということを教えていただき、感動した。
- 最近のフェミニズムやLGBTQなどが扱う課題にも重なる、多様性を尊重するためのヒントが得られ、深い学びが得られた。
- 社会問題を考えるきっかけの場としての劇場の役割を知り、わかりやすく説明していただき、勉強になった。



DVへの気付き・つなげる支援事業

「気持ちを言葉に！言えなかった心のモヤモヤを整理する～アサーティブ・コミュニケーション講座～」を開催しました

日時：2023年1月31日、2月7日、14日（いずれも火）午前10時～11時30分

会場：男女平等センター 研修室B

講師：花崎 晶さん（公認心理師、産業カウンセラー）

「アサーティブ・コミュニケーション」とは、相手を尊重しながら、素直に対等に気持ちを伝えるコミュニケーションの手法です。本講座は、DVの現状・定義を学び、一方的で攻撃的なコミュニケーションが精神的暴力であることを知っていただくことを目的に、3回連続講座として実施しました。

参加者は、アサーティブの考え方に触れ、同じ悩みを持つ方と実践ワークを通じて交流することで、新たな視点を獲得し、自分が持つ価値観や自分が伝えたいことを整理する機会となりました。

文京SOGIにじいろ講座

「LGBT…の基礎知識とSOGIハラへの社内対応～具体的な取組紹介と社内体制の整え方～」を開催しました

日時：2023年2月3日（金）午後2時～4時

会場：オンライン開催

講師：屋成 和昭さん（株式会社アウト・ジャパン代表取締役）ほか LGBTQ当事者の方

令和2年6月から、「パワハラ防止法（改正労働施策総合推進法）」が施行されたことに伴い、性的指向や性自認に関するハラスメントもパワーハラスメントであるとされ、企業は防止対策を講じることを求められています。そこで、LGBT施策を推進する株式会社アウト・ジャパンの屋成 和昭さんをお招きし、LGBT等に関する制度にはどのようなものがあるのか、どのように進めていくのが良いのかを紹介するセミナーを開催しました。当日は、LGBTQ当事者の方にもご登壇いただき、健康診断や職場でのプライベートな会話を例に、働く上で困ることや嬉しい配慮など、生の声をご紹介いただきました。

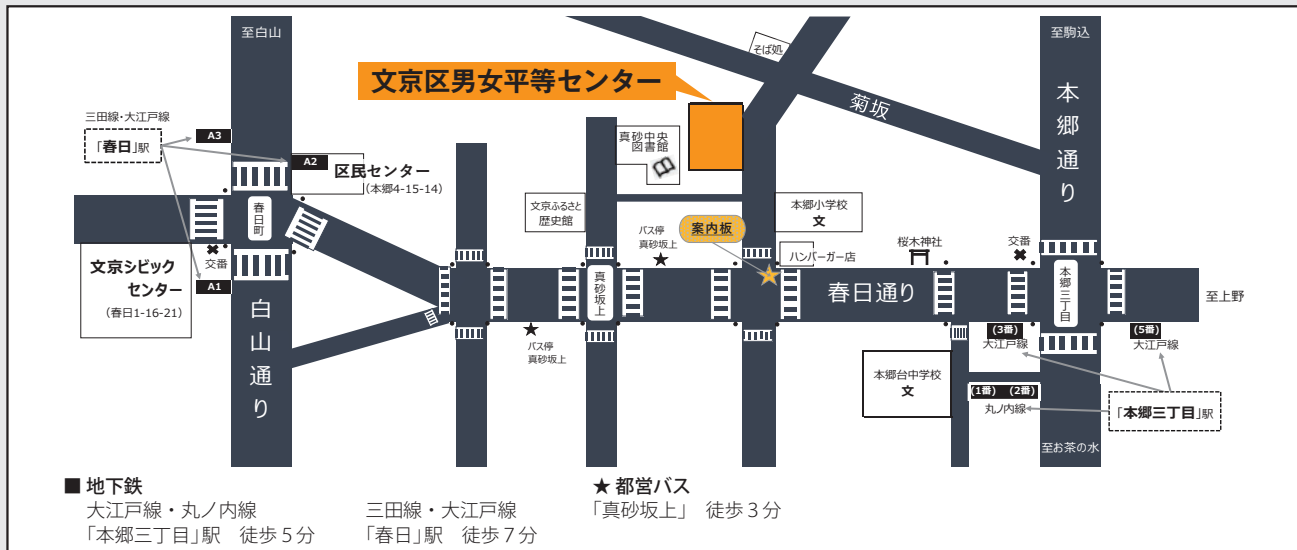
センターからのお知らせ

〈男女平等センターが新型コロナワクチン接種会場になりました〉



- 期間：令和4年10月4日～同年12月22日
- 接種人数（延べ）：5,028人

※多くの方が接種に来館され、接種後に資料コーナーや館内の展示をご覧になった方がたくさんいらっしゃいました。



編集後記

ミモザの花言葉が友情、気まぐれな恋、豊かな感受性と言われています。コロナ禍で人との一定の距離が日常になり友達と旅行や食事の機会が減り友情がなかなか芽生えない状況が続きました。コロナウイルスが日本で確認されて3年目となった今年、やっと緩和の話を耳にするようになりました。我慢の年がすこしずつ無くなりコロナ前の日常を取り戻す年になる事を願っていますね。
(近・面来)

2023年3月31日 発行 文京区女性団体連絡会会長 千代和子
編集担当 広報部 近麻希子・面来美保
〒113-0033 文京区本郷4丁目8番3号 Tel.03-3814-6159 Fax.03-5689-4534
文京区男女平等センターは文京区女性団体連絡会が指定管理者として管理・運営しています。